

耳鼻咽喉科感染症の Methyl-Chlorophenyl-isoxazolyl Penicillin による治療成績

三辺武右衛門・飯田宏美・村上温子

関東通信病院耳鼻咽喉科

(昭和 38 年 8 月 26 日受付)

新合成ペニシリン Methyl-Chlorophenyl-isoxazolyl Penicillin (MCI-PC) は、グラム陽性菌に対し強い抗菌力を有し、特に耐性ブドウ球菌に有効である。また酸に安定にて経口投与によつても高い血中濃度が得られ、筋肉注射も可能でペニシリナーゼに対しても安定性を有することが明らかにされている。

私共は本製剤を耳鼻咽喉科感染症に試用して見るべき成績を得たのでその概要について報告する。

ブドウ球菌に対する抗菌試験

化膿性中耳炎の耳漏から分離したコアグラエゼ陽性のブドウ球菌 20 株について、PC G 及び MCI-PC に対する感性試験を行なった。試験方法は寒天培地を用いた倍数稀釈にて測定した。その成績は表 1 に示すごとくである。即ち MCI-PC は 0.75~0.3 µg/ml にてブドウ球菌の発育を阻止し得ることで、特にペニシリン耐性ブドウ球菌 12 株に対しても何れも 0.15~0.3 µg/ml に発育

を阻止して耐性ブドウ球菌に有効なことを示している。

臨床成績

耳鼻咽喉科感染症に使用した治療成績は次のごとくである。本剤の使用に際してはペニシリン耐性の有無に関係せず、初診時に菌培養と同時に本剤の投与を行なつて臨床経過を観察した。成人においては 1 日量 1g, 4 回に分服し、小児においては 0.5~0.75g を 2~3 回に分服せしめた。また筋肉注射では小児においては 1 日 1 回, 125 mg~250 mg の注射を行なった。

急性化膿性中耳炎にて経口投与を行なった 14 例においては著効 11 例, 軽快 7 例, 無効 2 例であつた。筋肉注射は主として幼小児に行なつたが 8 例のうち著効 7 例, 無効 1 例であつた。

慢性化膿性中耳炎にて経口投与を行なった 7 例においては、著効 3 例, 無効例 4 例にて、グラム陰性桿菌によるものには効果のないことを示している。

表 1 化膿性中耳炎より分離したブドウ球菌に対する抗菌力

PC-G (u/ml)	100	50	20	10	5	2.5	1.25	0.6	0.3	0.15	0.075	MCI-PC (µg/ml)	20	10	5	2.5	1.25	0.6	0.3	0.15	0.075
菌株数	3	2	3	3	0	1	2	1	2	2	1	菌株数	0	0	0	0	0	0	13	7	0

表 2 急性化膿性中耳炎の MCI-PC の経口投与による治療成績

症 例	年齢	性	側	起 炎 菌	PC 感受性	投 与 法			効 果	副作用
						1 日量 (g)	日 数	総 量 (g)		
1	26	♂	左	<i>Staph. aur.</i>	++	1.0	3	3	++	—
2	20	♀	右	<i>Microc.</i>	++	1.0	5	5	++	—
3	35	♀	左	<i>Str. (α)</i>	+++	1.0	2	2	++	—
4	19	♂	右	<i>Staph. aur.</i>	++	1.0	6	6	+	—
5	45	♂	右	<i>Staph. aur.</i>	—	1.0	4	4	++	—
6	23	♂	左	<i>Staph. aur.</i>	+++	1.0	4	4	++	—
7	16	♂	右			1.0	4	4	++	—
8	6	♂	両	<i>Staph. aur.</i>	—	0.75	3	2.25	++	—
9	10	♂	右	<i>Staph. aur.</i>	—	0.75	3	2.25	++	—
10	6	♀	左			0.5	5	2.5	—	—
11	6	♀	右	<i>Str. (α)</i>	+++	0.5	6	3.0	++	—
12	4	♂	左	<i>Staph. aur.</i>	—	0.5	5	2.5	—	—
13	11	♀	右	<i>Microc.</i>		0.75	6	4.5	++	—
14	7	♀	左	<i>Staph.</i>	—	0.75	5	3.75	++	—

表 3 急性化膿性中耳炎の MCI-PC の筋肉注射による治療成績

症 例	年令	性	側	起 炎 菌	PC 感受性	投 与 法			効 果	副作用
						1 回注射 量 (mg)	回 数	総 量 (mg)		
1	1	♂	右	<i>Staph. aur.</i>	—	125	3	375	+	—
2	8	♀	左	<i>Staph. aur.</i>	—	125	3	375	+	—
3	2	♀	両			125	1	125	+	—
4	2	♂	右	<i>Staph. aur.</i> <i>Microc.</i>	+	125	4	500	—	—
5	3	♀	右	<i>Staph. aur.</i> <i>B. subtilis</i>	+	125	3	375	+	—
6	5	♂	両			125	4	500	+	—
7	1	♂	両	<i>Staph. aur.</i>	—	125	3	375	+	—
8	4	♂	左	<i>Bacill. G (-)</i> <i>Microc.</i>	+	250	5	1250	+	—

表 4 慢性化膿性中耳炎の MCI-PC の経口投与による治療成績

症 例	年令	性	側	起 炎 菌	PC 感受性	投 与 法			効 果	副作用
						1 日量 (g)	日 数	総 量 (g)		
1	43	♀	右	<i>Microc.</i> <i>Bacill. G (-)</i>	—	1.0	4	4	—	—
2	29	♀	右	<i>Microc.</i> <i>Bacill. G (-)</i>	—	1.0	3	3	—	—
3	45	♂	左	<i>Bacill. G (-)</i> <i>B. subtilis</i>	—	1.0	4	4	—	—
4	16	♀	左	<i>Staph. aur.</i>	+	1.0	3	3	+	—
5	18	♂	右	<i>Staph. aur.</i>	+	1.0	5	5	+	—
6	54	♀	両	<i>Staph. aur.</i>	—	1.0	6	6	+	—
7	9	♂	左	<i>Bacill. G (-)</i>	—	0.75	4	3	—	—

表 5 副鼻腔炎の MCI-PC の経口投与による治療成績

症 例	年令	性	側	起 炎 菌	PC 感受性	投 与 法			効 果	副作用
						1 日量 (g)	日 数	総 量		
1	20	♂	両 急	<i>Bacill. G (-)</i>	+	1.0	6	6	+	—
2	38	♂	左 亜急	<i>Staph. aur.</i>	+	1.0	4	4	—	—
3	18	♂	左 慢	<i>Staph. aur.</i>	+	1.0	6	6	—	—
4	8	♀	両 慢	<i>Str. (α)</i> <i>Bacill. G (-)</i>	+	0.75	6	4.5	+	—

副鼻腔炎症例における治療成績は表5に示すごとくで、急性症と慢性症の2例においては軽快を見たが、慢性症の2例においては治療効果は認められなかった。

その他の耳癰、鼻癰、扁桃炎等の感染症における治療成績は表6に示すごとくで、10例のうち9例に著しい治療効果を認めることができた。

副 作 用

耳鼻咽喉科感染症 43 例に使用して、特に副作用は認められなかった。

結 語

耳鼻咽喉科感染症に MCI-PC を使用して、次の結果を得た。

1. 化膿性中耳炎から分離したブドウ球菌、特にペニシリン耐性ブドウ球菌に対して著明な抗菌性がみられた。
2. 43 症例のうち著効をみたもの 30 例、軽快 3 例、無効例 10 例であった。グラム陰性桿菌には全く治療効果がなかった。
3. 副作用は特に認められなかった。

表 6 その他の耳鼻咽喉科感染症の MCI-PC による治療成績

症 例	年 令	性	側	起 炎 菌	PC 感受性	投 与 法			効 果	副作用
						1 日 量 (g)	日 数	総 量 (g)		
1	20	♂	右耳痛	<i>Staph. aur.</i>		1.0	4	4	+	-
2	6	♀	左耳痛	<i>Staph. aur.</i>		0.5	4	2	+	-
3	45	♂	鼻 痛			1.0	4	4	+	-
4	28	♂	"			1.0	3	3	+	-
5	39	♀	"	<i>Str. (α)</i>	+	1.0	2	2	+	-
6	44	♀	腺窩性 扁桃炎	<i>Str. (α)</i>	卅	1.0	3	3	+	-
7	5	♀	"	<i>Str. (α)</i>	卅	0.25注射	2×	0.5	+	-
8	22	♂	"	<i>Staph. aur.</i>	-	1	3	3	+	-
9	34	♂	扁桃 周囲炎	<i>Str. (α)</i>	+	1.0	5	5	-	-
10	32	♀	喉頭蓋 蜂窩織炎			1.0 0.25注射	3 2回	3 0.5	+	-